

令和元年度

山梨における 教員育成推進事業 成果パンフレット

子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会
—OPPシートによる学習・指導と評価の一体化—

初任者研修等における
山梨大学教育学部教員の派遣

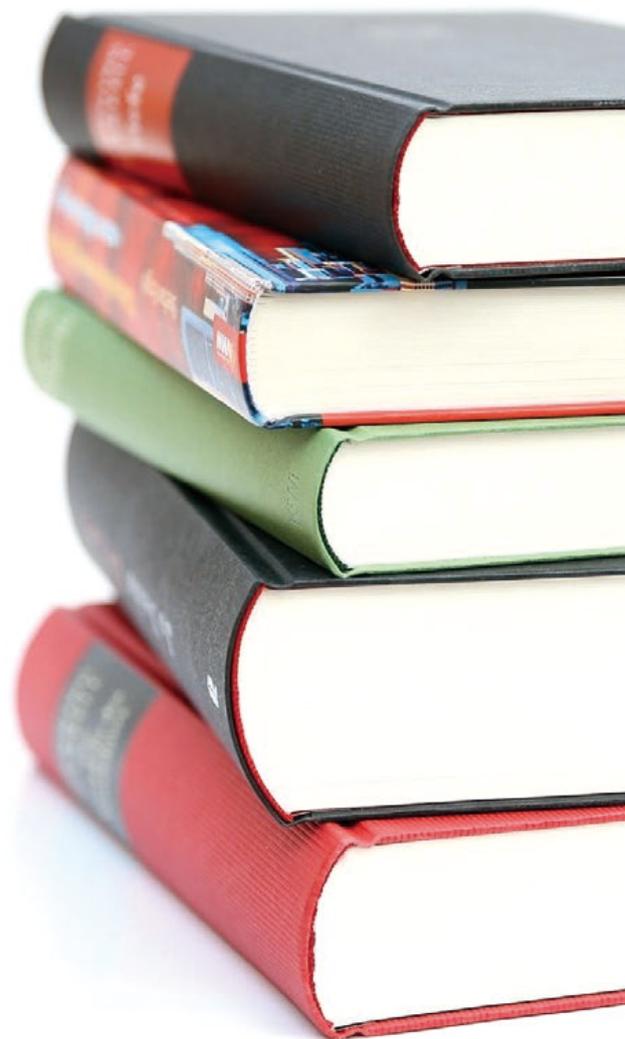
Index

教育学部長挨拶 p.1

子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会 pp.2~3

初任者研修等における山梨大学教育学部教員の派遣 p.4

令和2年3月 山梨大学教育学部



山梨大学 教育学部長
中村 和彦

日頃より山梨大学教育学部並びに大学院教育実践創成専攻(教職大学院)に対し、多大なるご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

本学部は、平成29年3月に山梨県教育委員会と「連携協力に関する覚書」を締結させていただき、県教育委員会及び総合教育センターとの連携協働のもと、現代の学校や地域における教育課題の解決に意欲的に取り組む、質の高い教員養成と現職教員研修の充実を目指して改革を進めています。

その一環として、令和元年度は、平成30年度に受託した文部科学省「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」をもとに、「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会—OPPシートによる学習・指導と評価の一体化—」及び「初任者研修等における学部教員の派遣」という2つの取組を学部独自の事業として実施しました。本事業はご参加いただいた県内の先生方から好評を得るとともに、令和元年8月に文部科学省で開催された「教師力向上フォーラム」での発表(ポスターセッション)において、すべての評価項目で最高点という非常に高い評価を受けています。

事業の実施にあたって、山梨県教育委員会、山梨県総合教育センター、及び県内教育事務所の皆様から多大なるご尽力をいただきましたことに、心よりお礼を申し上げます。

山梨大学教育学部は、これからも地域に根ざした教員育成を推進していきます。皆様のさらなるご指導とご支援を、よろしくお願いいたします。



子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会

— OPPシートによる学習・指導と評価の一体化 —



事業概要

OUTLINE

峡東地区

令和元年6月13日 / 山梨市役所

峡南地区

令和元年6月25日 / 身延地区公民館下山分館

富士・東部地区

令和元年8月 8日 / 都留市まちづくり交流センター

中北地区

令和元年8月 9日 / 北巨摩合同庁舎

< 4地区担当 >

堀 哲夫 (山梨大学前理事・副学長)

< 峡東地区 / 富士・東部地区担当 >

辻本 昭彦 (法政大学理工学部兼任講師、
武蔵野市立第五中学校非常勤教員)

< 峡南地区 / 中北地区担当 >

中島 雅子 (埼玉大学教育学部准教授)

講師

山梨県総合教育センターとの共催により、「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会—OPPシートによる学習・指導と評価の一体化—」を開催しました。

本研修会では、より多くの先生方が参加できるように、教育事務所ごと県内4地区で同じ内容の講座を次の日程で実施しました。

わかりやすく楽しい
研修会でした！



多くの先生方が参加

本年度の研修会は、山梨県総合教育センターとの共催事業として、総合教育センターの研修計画に組み込んでいただき、県内すべての学校に周知するとともに、各地区の教育事務所にも御協力いただいた結果、若手からベテランまで全会場で合計162名の先生方に参加していただきました。



内容

CONTENTS

学習・指導と評価の一体化を可能にし、授業方法の改善につなげていくための方法であるOPPA(一枚ポートフォリオ評価)論について研修を行いました。

具体的には、

- ◆ OPPA理論についての解説
- ◆ OPPAに基づいた授業実践事例の報告
- ◆ OPPシートをつくるための「本質的な問い」を考える演習・グループワーク
- ◆ 「ダイヤモンドランキング」を使った、参加者相互が意見交流するグループワーク

を行いました。

また、OPPシートの効果を実感してもらうために、受講者が本研修会用のOPPシートに実際に記入し、自身の変容・成長について振り返る活動を行いました。

OPPAとは？

OPPAとは、One Page Portfolio Assessmentの略で、「一枚ポートフォリオ評価法」と呼ばれるものです。学習者が一枚のシート(OPPシート)の中に学習の成果を学習履歴として記録し、学習の全体を学習者自身に自己評価させる方法です。シートは、次の部分に分かれています。

- ① 単元開始前と終了後に記入する「本質的な問い」
(教師がこの単元を通して最もつかませたい内容を問いの形で示したもの)
- ② 授業の中で学習者が一番大事だと思ったことや自分が考えた授業のタイトルなどを授業ごとに記入する部分

OPPAの特徴は、次のように子どもの成長と教師の成長とを繋げるところにあります。

- ◆ 学習者にとっては、自分の学習の成果を振り返り、自分の成長をつかむことができるもの
- ◆ 教師にとっては、一人一人の子どもの学びの状況を把握し、毎回の授業を振り返り、授業の改善につなげることができるもの

ダイヤモンドランキングとは？

様々なテーマについて、10個の命題をカード等に記入し、参加者が自分にとって重要と考える順序にダイヤモンド型にランキング(順位付け)して、その根拠等を整理し、その結果について参加者相互が意見交換・討議する活動です。

討議のプロセスでは、一つの結果を導き出すということではなく、他者の考えを理解するとともに、コンセンサスを得ることに関する能力をトレーニングする観点で実施します。





成果と課題

ACHIEVEMENT & TASK

研修会で各自が記入したOPPシートによると、ほとんどの参加者が、自分の授業に対する考え方が変容していると記述していました。

◆ 参加者のOPPシートから

考える視点が変わったと思います。成長は毎時間の学習の中にもある、ということに改めて感じました。

本質的な問いを、指導案を作成するときに取り入れることで、何を学ばせたいのか、何に気付かせたいのかが、明確になることがわかりました。

教師だけが学習者の成長を分かっているだけではなく、学習者自身も自分の成長が分かるような授業改善をしていきたいと思いました。

子ども自身のもつ力を信じて、子どもたち自身が自分たちを育てられるように考えが変化しました。見方、考え方が広がったように思います。

全体から生徒個人へと視点が変化した気がします。

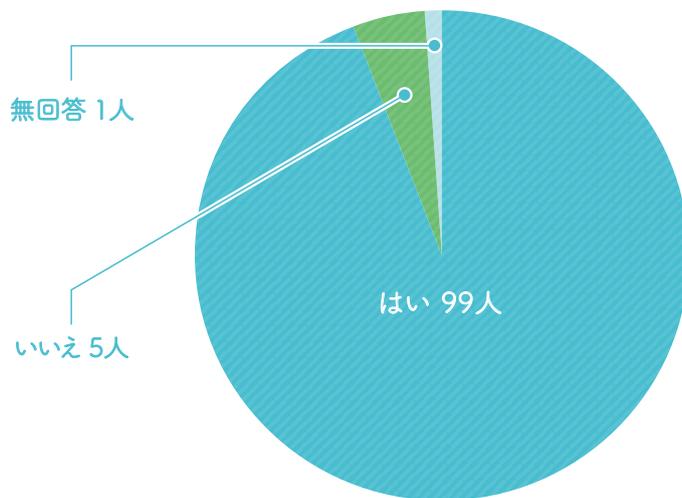
教師の発問に対して生徒がどう捉えているか、そのへだたりに長年悩んで来ました。OPPシートで頭の中をのぞくという言葉に、このへだたりに埋めるヒントを見つけることができました。

一方で、この短時間で本質的な問いまで学び、実際に形に…というのは、あまりに難しいと思った。受講後もその難しさはわからなかった。

そもそも何を学力と考えているのかの定義が間違っていたと思う。本質的な問いを考えながらの授業は難しいが、子どもの成長を引き出すためには非常に有効であると思った。

OPPシートがあれば、成績をつけなくてもいいのではないかと。成績表は必要なのか。結局、子どもの可能性をだめにしていないのでは、と改めて思います。

◆ 山梨県総合教育センターのアンケートから 設問「受講した研修会の内容を活用しましたか。」



本研修会を通して、子どもの成長と教師の成長をつなげて考えることの重要性に気付き、これまで自分になかった視点で授業をとらえ直すことができ、自分の考えが深まったという教員がたくさんいたことは、大きな成果だと考えます。

一方で、本質的な問いをつくることの難しさを感じ、本研修会を受けただけで実際にOPPシートを使いこなすことに困難さを感じた教員もいました。また、評価そのものへの疑問を改めて感じた教員もいました。

今後は、この研修を継続していくことにより、OPPAの理解をさらに深め、OPPシートの活用をより広め、多くの教員の授業力を高めていくことが課題といえます。特に、教員自身が自己の専門性について継続的に考え、「やまなし教員等育成指標」に基づいて、自身の課題を自覚できるようにすることが重要です。

これらの成果と課題を踏まえて、次年度もこの研修会を山梨県総合教育センターとの共催により、各地で行っていきたくと考えています。





初任者研修等における 山梨大学教育学部教員の派遣



事業概要

OUTLINE

山梨県教育委員会との連携のもと、山梨県教育委員会・市町村(組合)教育委員会が拠点校等で行っている初任者研修等へ、本学部の教員を指導・助言者として派遣する事業を、県内4教育事務所・山梨県総合教育センターの全面的な協力を得て次のとおり行いました。

派遣期間・回数 令和元年9月13日(金)～令和2年1月17日(金) 計28回

派遣人数 延べ28人

派遣校種 小学校 11校、中学校 11校、高等学校 6校

内容 「初任者による研究授業」の参観と、その後の「授業研究会」での指導・助言(小学校国語・算数・道徳、中学校国語・社会・数学・理科・英語・音楽・道徳、高等学校国語総合・現代社会・世界史B・数学Ⅲ・化学・コミュニケーション英語Ⅱ)



初任者の声

子どものより自由な発言を尊重し、その中から授業をつくり上げていくことが大切だと思った。

私が本研修会で大切だと感じたことは、教授がおっしゃられた「既習と関連させる」という言葉です。

目の前の子どもたちに合った課題を設定し、学習計画を立てる大切さを学びました。

大学の先生に、教科の専門的な視点で助言をいただいたことが一番の学びとなりました。

授業を多くの先生方に見ていただき、いろいろな視点から指摘をいただくことは、とても大切なことだと思う。

授業で何を生徒に伝えたいのかという目的と、一歩引いて全体を広く眺めることで、新たな視点が生まれることを学びました。

派遣教員の声

初任者の先生が、これから算数の授業を続けていく上で、大切にしてほしいことが伝わるように具体的にお話をするこころを心がけて参加した。

初任者がこの研修によって、教員としての自信を深められるようにしたい。授業の現場に対する知見を広めたい。

子どもたちが考え、対話する道徳となるように、初任者の先生方の授業のよいところを引き出しつつ、課題をどのように指摘するかを意図して参加した。

初任者として、目標を明確にした授業ができるかという視点で参観した。

初任者研修であることから、1年目の実践における悩みや課題と格闘している姿を予想し、指導者の指導上の良い点について伸ばすことができるといふ考え、参加しました。

大学教員という立場や、岡目八目の視点から助言をするよう心がけた。

大学教員が学校現場の研修にかかわり、従来とは違う視点からの指導・助言をすることで、初任者研修をより深める一助になることができたと思います。

また、派遣された教員にとっても、学校現場と関わりをもつことで、地域に貢献するとともに、大学との連携のあり方を考える貴重な機会ともなりました。

今後の課題としては、学校現場における大学教員のよりよい関わり方について、また大学と地域との連携や大学による地域貢献のあり方について、さらに研究を深め、改善していくことが挙げられます。

今年度の成果と課題を踏まえながら、今後も本事業を継続していきたいと考えています。



成果と課題

ACHIEVEMENT & TASK

お問い合わせ先

山梨大学教育学域支援課

〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37
TEL.055-220-8102 FAX.055-220-8791



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

教育学部
イメージキャラクター
梨子ちゃんとお福くん

